

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委員長 小田 高之 副委員長 佐藤 哲朗 委 員 柳 賢一、鈴木 雅子、前田 麗子、土谷 直樹、 野々山 雄一郎、小木曾 智洋、中根 武彦
視 察 日 時	令和4年5月11日（水）10：00～11：30
視察先・概要	静岡県静岡市 人口：686,825人 世帯数：322,669世帯 面積：1,411.83 k m ²
視 察 項 目	「高校生との意見交換会」について
視 察 概 要	高校生と議員との意見交換会について 1 目的・経緯 意見交換会は、平成29年度に当時の議長の発案により開始。 市民と議会の距離を縮めるため、市議会議員と高校生の接する機会を設け、市議会や選挙、身の回りの関心事について、ざっくばらんに話をすることで、高校生に市政や議会、議員に興味や関心を持ってもらうことを目的とする。 2 実施スケジュール（議会事務局） (1) 参加高校の募集（4～5月中旬） 市立高校は議会事務局から直接依頼。県立高校は県教委、私立高校は私学協会を通じて依頼。 (2) 実施高校の決定、打ち合わせ（5月下旬） (3) 各会派あて参加議員の選出依頼（6月初旬） 依頼人数は会派の人数比率で決定。 (4) 参加議員の決定及び説明会の実施、 参加生徒へのアンケート実施（6月下旬） (5) 意見交換会の実施（7月～12月） 参加生徒、議員への事後アンケート実施。 (6) 今年度の振り返り、次年度計画（1月以降） 3 当日スケジュール（例） (1) 高校生の議場見学（市議会の仕組み説明）※事務局対応 (2) 意見交換開会 議長挨拶、議員紹介等 (3) グループディスカッション 30分程度を3回 (4) 閉会 副議長挨拶、終了後に事後アンケート記入 4 グループディスカッションの進め方 (1) 6人の議員を2人1組のペア、3グループに分ける。 (2) 回数は30分（目安）を3回実施。

	(3) 議員がペアごとにテーブルを移動する。 (4) その他 活発な意見交換ができるようテーマを設定済。 意見交換のテーマは学校側から提案。 進行は議員が行うが、学校からの希望により生徒進行も可能。 5 議員の役割 事前アンケートの結果を基に生徒が興味や関心のあることの把握。 テーマに係る情報収集。グループディスカッション30分×3回への参加など。 6 議会事務局の役割 参加校の募集。参加校と日程や会場、テーマ等の打ち合わせ。事前アンケート、事後アンケートの準備、とりまとめなど。 7 令和3年度の実施状況 (1) 開催回数 令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、市立高校1校、県立高校2校、私立高校2校の計5校と実施した。 (2) 開催場所 4校は市庁舎で開催し、1校は高校で開催した。 (3) テーマ 4校はテーマをグループ別で固定、1校は各回でテーマを変更。 8 事後アンケートの結果 (1) 意見交換会には満足度したか（生徒、議員） 全ての参加生徒、参加議員が「満足」「やや満足」と回答した。 (2) 参加したことで、議会・議員に対する関心は高まったか（生徒） 参加生徒の99%が「関心が高まった」「やや関心が高まった」と回答しており、意見交換会により、議会・議員に対する関心の向上に効果があることが読み取れる。 (3) 今後、議員と話をする企画があったら参加したいか（生徒） また参加したいとの回答は平均して約67%、誰かに誘われれば参加したいと回答した生徒を含めると、平均して約92%であった。 (4) 選挙権を得たら投票に行くか（生徒） 意見交換会実施前の投票に対する意欲は、全体の約63%程度であったが、実施後に投票しようとする生徒が約30%増加しており、結果投票に対する意欲は約93%となったことは、投票に対する意欲の向上に一定の効果があることが読み取れる。 9 現状の課題と今後の展望 (1) 現行の意見交換会に対する改善意見 難しいテーマでなく、身近なテーマについてもっと深く意見交換した方が、議論が活発になるのではないか。オンラインでの実施など、コロナ禍等にも対応できる実施体制の検討が必要。 (2) 課題
--	---

	意見交換会の準備（テーマ理解・研究等）に係る学校側（生徒・教員）の負担が増える。議会の会期と学校のカリキュラムとのスケジュール調整が難しい。 (3) 目指す姿 意見交換会を通し、高校生が市政や議会、議員に興味関心を持つ。若年層の投票率の向上。 10 その他 実施校の参加理由としては、授業の一環として毎年参加する学校や生徒会行事として参加する学校、リーダーシップ養成のカリキュラムとして参加する学校など様々である。 意見交換のテーマは、高校生にとって身近な内容の方が理解されやすい。過去には、通学路の問題をテーマとして取り上げ、実際に通学路への要望が執行部に届けられ、実現したものもある。 意見交換会の様子は市議会だより（市政だよりと合同で発行）で特集を組み市民に広報している。 市議会だよりを見た保護者から直接高校に参加を要望された事例があったと聞いている。
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・高校生との意見交換会は、選挙権年齢の18歳への引下げを受けてのものであり、開催校は学校における教育の一環として実施していた。また、高校生にとって身近なテーマで、意見は市政にも反映するなど興味深い取り組みだった。本市において市内4大学との意見交換会終了後の取り組みは今回の視察の内容を踏まえて検討していく必要がある。 ・特色として、学校側から応募を受けて企画、開催をしている。学校側の学習カリキュラムに組み込まれており、1年次、2年次、3年次と継続して長期的に学習が進められる。そのため、若い時から地方政治や選挙に対する興味関心を高める効果が期待できると考えられる。同一年度に複数の学校と意見交換会ができること、また、同じ学校がリピート参加できることは、市にとって将来的に優秀な社会資源の創出が期待できる。岡崎市は同一年度に一つの大学との意見交換会の機会があるが、より多く若い世代に行政運営に興味を持ってもらい、将来的に岡崎市を支える人材育成を図ることを目的とするならば、意見交換会に参加する学校の選定方法や、開催方法について検討することも必要な視点ではないかと考えた。 ・高校生との意見交換会は今後の岡崎市議会でも開催していきたい。現在、岡崎市では、市民と市長の市民公聴会にて意見交換をしている。以前は、前職の市長と高校生との市民対話集会を開催していた。共にざっくばらんに話をしながらの意見交換とは言い難く、市の取組の紹介、その取組に対する意見を聞く等、市側の広報色が強い。静岡市の高校生との意見交換会は、意見交換そのものが目的であり、必ずしも提言などの結論はいらない。まずは市政や議会に興味や関心を持ってもらい、身の周りのことなどざっくばらんに話をする意見交換が重要と考える。

	・ 静岡市の意見交換会は、平成 29 年度に議長の発案により、市民と議会の距離を縮めることを主な目的とし、ざっくばらんに話をするこ とで、議会や議員に興味、関心を持ってもらうため、高校生を対象に開始された。目的は市民と議会との距離を縮めるとのことだが、意見交換を通して、高校生目線での行政上の課題を掘り起し、それを市政にフィードバックさせることに重点が置かれているように感じた。これは、議会として重要なことと考えるが、意見交換会の運営は主に事務局が担っており、必ずしも参加議員の思惑が意見交換会において十二分に反映されている補償は無いものと思われる。意見交換会のテーマやアンケート内容は議員自ら検討、選定した方がより有意義になるのではないかと考える。 ・ グループディスカッションでは各グループ議員 2 名、高校生 5 名とし、議員がローテーションして多くの生徒と意見交換できるように工夫されていた。本市では、議員は他のグループとローテーションを行っていない。テーマ分け、時間配分、ローテーションの方法も検討すべきと考える。 ・ テーマは、市民と議会の距離を縮めるとの目的から、高校生に市政や議会、議員に興味や関心を持ってもらえるよう、ざっくばらんな話題に触れられるよう配慮しているとのことであり、参考にすべきと思った。 ・ 岡崎市議会では高校生を対象に意見交換会を実施するのであれば、学校の意向を尊重しながら、なかなか政治に関心が持てない、あるいは市政に関心が持てない高校生にどうやって理解をしていただくか、議員が学校に出向いて話をする営業活動も必要ではないかと思う。若い人たちが自分たちの意見で政治が変わると実感することが政治に関わり投票率を上げていく第一歩だと思う。 ・ 他市においても試行錯誤の中から最善の手法を考えて実行していることに驚いた。人口規模の割に議員の数や事務局員数が少ないことで、事務局員の負担が大きいように感じられた。しかし、交換会の内容については、非常に充実した内容に仕上げられている。本市においても学生（若者）の考えを聞く良いチャンスであるので、内容の濃い意見交換会にしていきたい。
委員長の総括	有権者教育として高校生を対象としており、一定の成果があることを確認できた。定期的開催することにより、市内高校へ浸透していることが伺えた。また、定期開催により、高校側が意見交換会をカリキュラムの一貫として利用することを可能にしていると拝察できた。小学校（模擬議会）、高等学校（意見交換会）、大学（インターン）と、各年代における議会との関わりが準備されている。他方で、本市の運営体制とは異なる部分も多く、今後参考にする場合は十分に留意が必要である。